

みつばち組のあきまつり

向山保育園 保育士

「あきまつりまで」

夏に行われた幼児異年齢での夏祭りでお店屋さんごっこを経験した子どもたち。職員はこの経験をきっかけに子どもたちがお店屋さんごっこ遊びの中に取り入れられるよう準備しました。チョコバナナ・りんご飴・綿あめ・たこ焼き・花火などを空いた時間に子どもたちと作りながら、時々それを使ってお店屋さんごっこを楽しみました。はじめはその中で、「私も店員さんやるの〜」「これダメ〜」とトラブルが多発する場面もありながら、日常の中で楽しむうちに子どもたちの遊びも安定してきて、店



員さん役もお客さん役も上手に分担してできるようになりました。

また「親子で買い物袋を家で作ってくる」というご家庭での工作もお願いして、子どもたちの当日への期待がさらに膨らんでいきました。職員も子ども用浴衣を急ピッチで環境さんに製作して頂いたり、お面作りやプレゼント作りに勤しんだり、とバタバタと大変ではありましたが、子どもたちの楽しむ姿を想像しながら、準備を進めていきました。

「当日」

当日は子どもも職員も浴衣や法被を着てお祭りモード全開。クラスを半分に分け、子どもたちは店員さんとお客さん、両方の経験をしました。「俺は先に(お客さんを)やりたいんだよ〜!」と怒る子もいましたが、その時は臨機応変に対応。お祭りが始まると「いらっしやいませ〜」と威勢よく呼び込みをする子や、お手製のお金のやり取りで十円と百円を嬉しそうに出す子の姿がありました。

3歳児クラスが故に大人の力が必要になる場面ももちろんあります。しかし、当日だけでなく今まで少しずつ製作やお店屋さんごっこを楽しんできたので、その日だけのお祭りごっこよりも、子どもたちそれぞれが自身の役割をわかった中でより楽しめたのではないのかと思います。

この日が終わっても、お店屋さんごっこを使った遊びを引き続き行う姿があり、みんなで共通の

法人だより

たまふく

社会福祉法人 多摩福祉会
きもちつながる、想いひろげる。

練馬の子ども達に多摩福祉会の実践を届けよう

2024年に第5の保育園建設!

多摩福祉会理事長 垣内 国光

28の応募事業者の競争を勝ち抜いての新規事業です。凄いことです。当法人にとって新規事業の受託は楽なことではありません。それでも、この事業に応募しようという声を職員からいただいたことは、理事長として本当に嬉しいことでした。

福祉全般の市場化、営利化がすすんでいます。「福祉や保育が金儲けの対象となって良いのか」と思われるでしょうが、現実には私たちの想像をはるかに越えています。当法人の保育園が所在する自治体状況(2022年5月現在)です。多摩市には23の保育園があり、そのうち社会福祉法人経営の保育園が21か所、営利法人はゼロです。世田谷区は215

の保育園のうち社会福祉法人が11か所、営利法人は46か所です。練馬区はどうかでしょうか。1911の保育園のうち社会福祉法人が21か所、営利法人は103か所です。6割が営利法人です。練馬区同様の自治体は少なくありません。2000年に営利法人の参入が認められて以降、都内では営利法人のシェアが高まるばかりです。保育園経営は株式会社というところが常識となりつつあります。これから、私たちのような子ども本位の実践、透明性の高い法人経営は不要なのでしょうか。民主

的な法人が社会的影響力を低下させていくって良いものでしょうか。多摩福祉会にゆとりがあるわけではありませんが、それでも、練馬の子どもたちに私たちの保育を届けたいと考えます。多摩福祉会は、公益性を守り子どもたちとご家庭のために最善を

連絡先

〒155-0031
東京都世田谷区北沢
2-36-9-4F
社会福祉法人多摩福祉会
法人事務局

◆Tel. 03-6804-8345
◆Fax. 03-6804-8347
◆Mail: tamafukushikai@gmail.com

尽くす法人です。法人役員、法人職員、保護者、関係者の皆さまの力が必要です。法人の力を結集して、練馬の子どもたちに多摩福祉会の実践を届けようではありませんか!



今号の目次

- 1P 練馬の子ども達に多摩福祉会の実践を届けよう
- 2P 砧保育園：花ひらく5歳児〜やりたいを形に〜
- 3P 永山学童クラブ：気持ちの伝え方講座
- 4P 向山保育園：みつばち組のあきまつり



●広報委員会●

中本 琢也
江藤 龍之介
小林 君江
岡田 織

バックナンバーは
こちらから!

(仮称)
練馬区谷原5丁目保育園
平面図



花ひらく5歳児〜やりたいを形に〜

碓 保 育 園 幼 児 主 任

夏にすいかが出るたびに「○○(碓卒園のいとお兄ちゃん)はお泊りで、すいか割りしたんだって!」と話をしていました。「Hくんは、やりたいの?」「うん。やりたい!」「給食の先生とか○○先生(担任)に言ってみたら?」「うん」と話をしていたのですが、なかなか自分からは一歩踏み出せないHくん。もう少ししたら後押ししてみようかなと考えていましたが、コロナが大流行して、その話を受け止めきれないほど日々を回すことに必死になっていました。

夏の終わりに、気持ちを受け止めることができ、クラスの担任にもつながり、すいか割りの計



画を立て始めました。Hくんらしいおんさん(5歳児)が中心となって、新聞紙で作ったすいかですいか割りの練習。うさぎさん(3歳児)もきりんさん(4歳児)も一緒に楽しんでいました。

いざ本番!しかし一回目に予定していた日は、全クラス登園自粛期間。もう一日日程をとろう!と別日に幼児クラスで実施することができました。どの子も「楽しかった」と話し、他のクラスではその後に新聞紙ですいかを作って楽しんでいたのでした。

その数か月後、担任の先生と「豚汁好きだから作りたいんだよね」「豆腐も入れたい」との話になったようです。「先生、豆腐の本があるって聞いたんだけど、どこにあるか知ってる?」と聞いてきたHくん。「見てみたくなったの?」「Hくん作りたいんだよね」。

「豆腐の本を見つけて早速調べてみました。材料や作り方をよく見て「難しそうだけど、作りたい。」とHくん。給食の先生もやってみよう!と話してくれて、豆腐作りを計画中です。

3・4・5歳の異年齢クラスでは、数年前から味噌作りをしています。4月に仕込んでちょうど今が熟成されておいしくなる時期です。そこに合わせて味噌汁クッキングもしました。Hくんは味噌汁作りで練習して「次は豚汁」と張り切っています。

廃業してしまったのですが、以前給食でお願いしていたお豆腐屋さん近くに住んでいます。



作り方など教えて頂けると良いなと考えているところですよ。

Hくんだけでなく他の5歳児も、なかなか『こうしたい』『やりたい』ということが出てきづらい子どもたちでしたが、夏の生活から運動会を経て自信がつき、「やってみよう」という思いを少しずつ広げて実現しています。コロナ禍でできないことも多かった5歳児、我慢させてしまったこともたくさんあったかなと思うと反省もあります。

これからお泊り保育もあるので、どの子も色々な『やりたい』という思いを発信して、『実現できたい!』という喜びをたくさん感じてほしいと思います。

秋の行事「気持ちの伝え方講座」

永山学童クラブ 学童支援員

二期期になると学童クラブの行事には、この季節ならではの「焼き芋パーティー」や、子どもたちの力で運営に取り組む「おみせやさん」などがあります。今回は永山学童クラブで近年毎年この時期に行っている「気持ちの伝え方講座」を紹介したいと思います。

長い一日を学童クラブで過ごす夏休みを経て関係が深まるにつれ、友達とのやり取りの中でトラブルが起きてしまうことも多くあります。「気持ちの伝え方講座」は、その中のよくあるシチュエーションを取り上げ、職員がキャラクターに扮して演じた劇の映像を見せることによって、子どもたちにそれらの場面を客観視してもらい、やり取りの仕方をみんなで一緒に考え、共有する目的で行っています。

今年度は「レゴのパーツのやりとり」と「遊ぶ約束のやりとり」の場面を取り上げました。「レゴ」の方は『他の子がレゴのパーツを独占して(のび太)が使えない』という内容で、「遊びの約束」のほうは、『約束したのだから二人だけで遊びたい。他の子を入れたくない。』という場面でした。みんなだったら「こんなとき、どうする?」と一緒に首をかしげて考えました。レゴの場面では、

「のび太がかわいそう」とか「俺はいつも」ジャイアン“(の立場)だから困ってない”などと様々な意見が出ました。「遊ぶ約束」の場面では、「順番を決めて遊ぶのはどうか」「三人で遊べばよいよね」と冷静な意見が出されました。

今回は劇と意見交換の最後に、四年生たちから一例として、それぞれの場面において『四年生だったらどうするか』と台本を考え演じた劇を見てもらいました。

実はその四年生のうちの一人も、一年生の時に遊ぶ約束について悩んでいたことがありました。友達からの一方的な遊ぶ約束と、自分の遊びたい友達との間で板挟みになってしまい、自分の気持ちを伝えられないでいました。しかし、その子が劇の台本を読むなり、うんうんと頷きながら「ああ、こういうことあるよね」という一言を漏らしたのです。そして考えたシナリオでは、同じ板挟みの立場でも「今日は○○と遊ぶから、明日遊ぶ。」という、はっきりと、かつ丁寧に自分の気持ちを伝える台詞が書かれていました。

この行事を経たあと、同じようなトラブルがあると、他の学年の子どもたちも四年生と同じように、「そういえば講座でもこんなことあったよね」と話をしています。このように、自分にも起こった出来事を振り返り、冷静に自分で考えて、適切なコミュニケーションを取ろうとするようになっていきます。



永山学童クラブの「気持ちの伝え方講座」は、成長の過程における大切な行事のひとつとして、子どもたちの様子に合わせて毎年行われています。

